

## 事例

# ゆるスポーツを活用した取組（一般社団法人世界ゆるスポーツ協会）

～新しいスポーツを開発することによる運動実施率向上、リブランディング、地方創生、町興し～

活動類型②スポーツ関連サービス(アプリなど)、スポーツ用具を活用したスポーツ実施者獲得



## 取組概要

「スポーツ弱者を世界からなくす」をコンセプトに、年齢性別運動神経や運動経験に関わらず誰もが楽しめる新しいスポーツ「ゆるスポーツ」を開発・活用し、スポーツ実施率の向上を始め、様々な社会課題の解決に取り組んでいる。

## 実施体制、運営状況等

氷見市教育委員会スポーツ振興課、氷見市スポーツ推進委員、氷見市スポーツ協会、世界ゆるスポーツ協会が連携し、実施を行うとともに、全国の自治体や団体に協力を仰ぎ、普及活動を行っている。

運営費用：300万円～（スポーツクリエイション費用：150万円～、用具開発費：50万円、普及費用：年間100万円～）

運営資源：プロジェクトマネージャー、スポーツクリエイター、運営スタッフ数名、備品開発

実施期間：2017年～2020年継続中

## 取組の狙いとポイント

### 氷見市の 運動実施・地域の 現状

- 全国でもメタボ率がトップレベルの富山県。なかでもメタボ該当者が多いのが氷見市。平成28年度氷見市民の健康意識と行動調査の結果によると、氷見市民は「健康になりたいけど、何をすればよいかわかっていない人(関心期)」の割合が多い状況。
- 自治体としてのPRの不足もあり、氷見市は街の過疎化が進み、2017年に過疎地域に指定された。

**氷見市の魅力をPRでき、氷見市民に親しみを持って楽しく身体を動かしてもらえるような、氷見市独自のスポーツコンテンツを開発。一過性のブームメントではなく、地域に根付く文化になるようなコンテンツとして設計。**

### 氷見市内の ブランディングUP の取組

- 氷見市の魅力のPR、「ハンドボールの街氷見市」としてのブランディング、ハンドボールの社会的価値の向上を目的として、ハンドボール競技と、氷見のブランド魚として全国に広く知られる出世魚「ブリ」を融合させた、氷見市独自のゆるスポーツ「ハンギョボール」を開発。
- ハンギョボールは、脇にブリを抱えて行うハンドボールで、ゴールを決めると脇に抱えるブリが出世し、大きくなっていく。開発においては、氷見市内の有志やスポーツ関係者へのヒアリング・ディスカッションを重ね、氷見市の魅力を吸い上げ、競技の方向性を決定。実験会を複数行い、ブラッシュアップを繰り返した。
- 競技の反則名は氷見市の方言を用いており、「ハンギョボール」をプレーすることで、氷見市の方言を知るキッカケ作りを仕組み化。

### 氷見市民の 運動実施率を 高める取組

- 春の全国中学生ハンドボール選手権大会のオープニングアトラクションとして、氷見市の中老年や選手権大会に参加する生徒の保護者を対象に、「春の中年ハンギョボール大会」を開催。その他にも氷見市民向けや県外の方へのアウトリーチを目的とする「ハンギョボール」の体験イベントを実施。
- 氷見市内の小・中学生を対象に「ハンギョボール」を体験する授業なども実施している。

## 取組効果

- 2017年から始まった取組は、2018年にはNHKを始め8種のメディア、さらに2019年には17種以上のメディアに取り上げられ、氷見市のPRや認知度向上に繋がった。
- 市民スポーツとして氷見市内の6つの小・中学校で「ハンギョボール」を実施することで、参加した学生の半数以上が知らなかった氷見市の方言に触れ、運動不足解消だけでなく郷土愛を育てることに繋がった。
- 2019年に実施した、氷見市の女性を対象とした「ハンギョボール」体験会では、参加者の全員がイベントを通して運動・スポーツの実施意欲が向上する結果となった。

## 今後の展開、取組方針

- メディアによる認知度向上を図るとともに、全国での実施による普及活動を行う。また、関連グッズの商品化をし、市内にて販売を行うことで、観光客への周知も行う。
- 市内にて学校や社会人に対して体験会を行い、生涯スポーツとしてハンドボールに触れて貰える機会を作る。